

薩摩硫黄島の火山活動解説資料（平成 28 年 5 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方气象台

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いていますので、火山灰等が噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 5月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2、図 3-①④）

硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 700m まで上がりました。

26 日と 31 日に海上自衛隊第 1 航空群の協力により実施した上空からの観測では、31 日に同火口内および火口周辺部からごくわずかに噴煙が上がっているのを確認しました。また、薩摩硫黄島周辺の海岸から昭和硫黄島にかけては、海水の変色域が広がっているのを確認しました。なお、26 日は雲のため詳細は不明でした。

・地震や微動の発生状況（図 3-②③⑤⑥）

火山性地震の月回数は 154 回（4 月：159 回）と、少ない状態で経過しました。

火山性微動は 2015 年 8 月以降、観測されていません。



図 1 薩摩硫黄島 噴煙の状況（5月5日、岩ノ上遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 6 月分）は平成 28 年 7 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び京都大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 2 薩摩硫黄島 火口及び周辺の状況

- ・火口内及び火口縁周辺から噴気が上がっているのを確認しました。
- ・薩摩硫黄島周辺の海岸から昭和硫黄島にかけては、海水の変色域が広がっているのを確認しました。

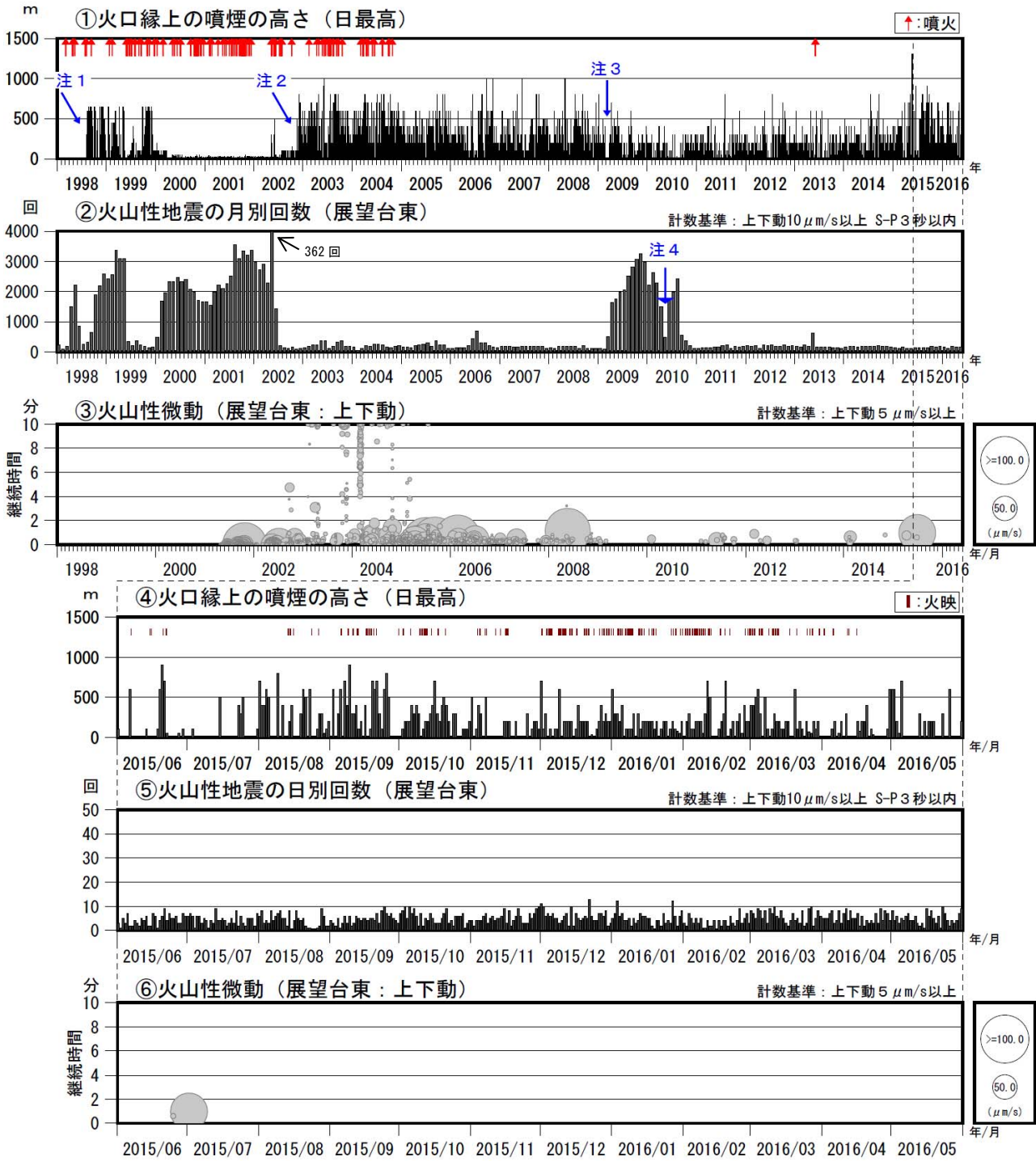


図3 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998年1月～2016年5月）

< 5月の状況 >

- ・硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 700mまで上がりました。
- ・同火口では火映は観測されませんでした。
- ・火山性地震の月回数は 154 回（4月：159回）と、少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動は 2015 年 8 月以降、観測されていません。

注1 1998年8月1日：三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注2 2002年11月16日：気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注3 2009年2月23日～3月21日：遠望カメラ障害のため噴煙は不明。

注4 地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間があります。

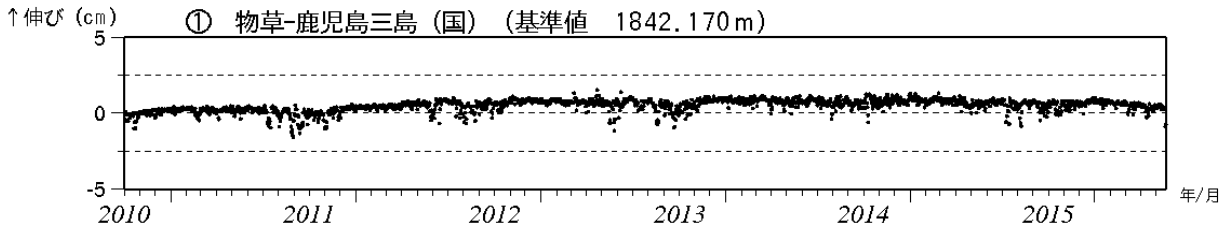


図 4 薩摩硫黄島 GNSS連続観測による基線長変化 (2010 年 10 月～2016 年 5 月)

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 5 の①に対応しています。

(国) : 国土地理院

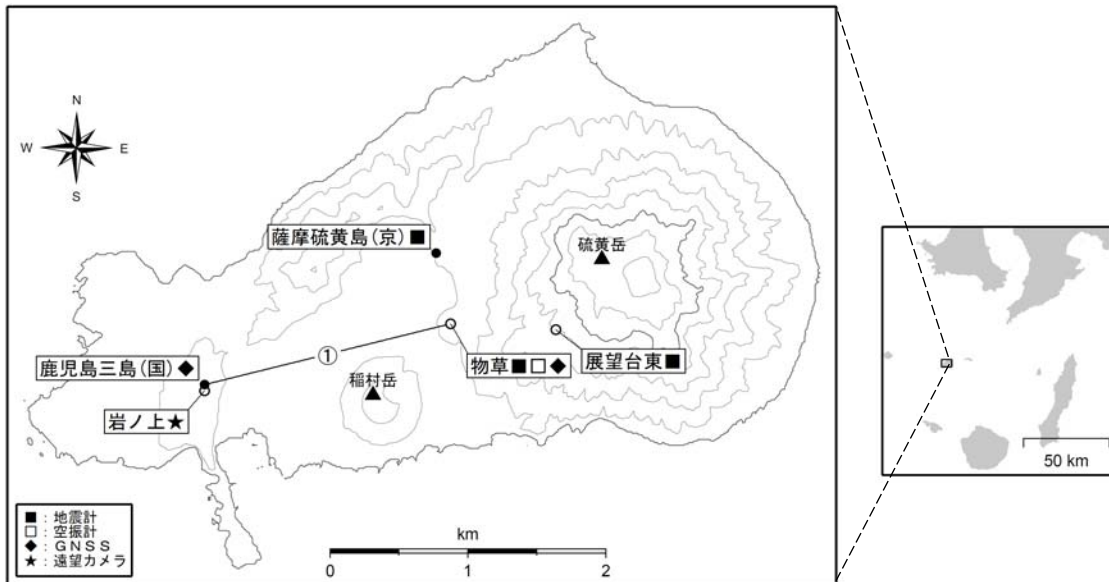


図 5 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院、(京) : 京都大学